

平成21年3月期 第2四半期決算短信

平成20年11月12日

上場会社名 株式会社 トランスジェニック
 コード番号 2342 URL <http://www.transgenic.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 是石 匡宏
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 事業推進本部 本部長 (氏名) 佐藤 道太
 四半期報告書提出予定日 平成20年11月13日

上場取引所 東

TEL 078-306-0590

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第2四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第2四半期	134	—	△312	—	△307	—	△313	—
20年3月期第2四半期	151	△32.5	△349	—	△358	—	△341	—

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期第2四半期	△2,877.25	—	—	—
20年3月期第2四半期	△3,129.72	—	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円 銭	円 銭	
21年3月期第2四半期	2,507	2,422	2,422	2,422	96.4	22,155.81	22,155.81	
20年3月期	2,899	2,730	2,730	2,730	94.1	25,014.38	25,014.38	

(参考) 自己資本 21年3月期第2四半期 2,416百万円 20年3月期 2,728百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
21年3月期	—	0.00	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	360	8.2	△459	—	△478	—	△484	—	△4,443.38	

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
 新規 — 社(社名)) 除外 — 社(社名))
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)
 ① 会計基準等の改正に伴う変更 有
 ② ①以外の変更 無
 (注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】「4. その他」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	21年3月期第2四半期	109,075株	20年3月期	109,075株
② 期末自己株式数	21年3月期第2四半期	14株	20年3月期	14株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	21年3月期第2四半期	109,061株	20年3月期第2四半期	109,061株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1 上記に記載した当期の業績予想につきましては、現時点で、入手可能な情報及び将来の業績に与える不確定要因に関しての仮定を前提としており、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる条件については、2ページ【定性的情報・財務諸表等】「3. 連結業績予想に関する定性的情報」をご参照ください。

2 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

定性的情報・財務諸表等

当連結会計年度は、四半期報告制度の導入初年度であるため、「1. 連結経営成績に関する定性的情報」および「2. 連結財政状態に関する定性的情報」における前年同期比較に関する情報は参考として記載しております。

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、原油や原材料価格の高騰が個人消費や企業収益を圧迫し、サブプライム問題に端を発した金融不安の影響が拡大、深刻化するなど、景気の先行きに不透明感が増す状況になりました。

当社グループが事業を展開するライフサイエンス業界におきましても、主要顧客である製薬企業を中心とした企業の研究開発活動は堅調に推移しておりますが、研究開発テーマの絞り込みが進み、当社の展開する研究支援型の受託サービスは選別による競争がますます激化しております。大学および公的研究機関においても引き続き予算執行を絞り込む、あるいは価格選好を強める傾向が強くなってきております。

このような状況の下、当社グループは、製薬企業や大学等の研究機関に対し、新薬開発の探索や基盤研究に有用な遺伝情報、受託サービス及び基礎研究用試薬を提供してまいりました。また、当社グループが保有する技術等のライセンス許諾に向けて積極的に取り組んだ結果、本年7月、尿サンプルによる癌診断に関するライセンス契約を診断薬メーカーとの間で締結し、本格的に開発ステージに移行することができました。

海外バイオ企業の研究用試薬を国内の研究現場へ提供する試薬販売サービスにつきましては、供給体制を整備し、販売拡大に努めてまいりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の当社グループの売上高は134,542千円（前年同期151,375千円）となり、予想を上回ることができました。損益面では、売上総利益については、採算性を重視した受注に取り組み、ほぼ予想どおりの57,792千円（同65,974千円）となりました。一方、販売費及び一般管理費については、研究開発体制のより効率的な運営を徹底し圧縮に努めた結果、370,668千円（同415,159千円）となり、営業損失312,875千円（同349,184千円）、経常損失307,207千円（同358,110千円）、四半期純損失313,795千円（同341,330千円）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりであります。

① 遺伝子破壊マウス事業

厳しい市場環境や価格競争の影響から受注が減少した結果、売上高は55,648千円（前年同期89,906千円）となりましたが、受託案件の採算性を追求した結果、営業損失は44,842千円（同71,535千円）となりました。

② 抗体事業

抗体製品や受託サービスの受注が好調であったことから、売上高は42,590千円（前年同期33,938千円）となりましたが、新抗体製品の開発にかかる研究開発費を計上し、営業損失16,886千円（同11,306千円）となりました。

③ 試薬販売事業

第1四半期連結会計期間より試薬販売事業の全セグメントに占める割合が高くなったため、試薬販売事業を「その他事業」から分離し、売上高27,626千円、営業損失13,558千円となりました。

④ その他事業

生殖工学技術研修サービス、海外バイオ企業の国内代理店業務等により売上高8,677千円、営業損失3,480千円となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期末（平成20年9月30日）は、流動資産1,845,812千円（前連結会計年度末比16.7%減）、固定資産661,823千円（同3.0%減）、流動負債77,969千円（同51.0%減）、固定負債7,052千円（同26.4%減）、純資産合計2,422,613千円（同11.3%減）となり、総資産は2,507,635千円（同13.5%減）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

税金等調整前四半期純損失312,130千円（前年同期338,078千円）、未払金の減少78,756千円（前年同期10,156千円）などにより、営業活動によるキャッシュ・フローは△373,751千円（前年同期△286,468千円）となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

資金運用を目的とした定期預金の満期による払戻600,000千円などにより、投資活動によるキャッシュ・フローは597,754千円（前年同期897,166千円）となりました。

以上の結果、当第2四半期末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ223,913千円増加し、1,720,505千円となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループが事業領域とするライフサイエンス業界は、選別と絞り込みによる厳しい環境にありますが、当社グループは引続き創薬関連サービスの一層の拡充を図るなど、収益獲得機会の拡大に努めてまいります。

当第2四半期連結累計期間の売上高につきましては、予想を上回ることができましたが、損益につきましては、年度後半に予定しておりました研究開発投資の一部を前倒しに実施したことなどにより、予想を下回る結果となりました。今後とも、受注獲得、販売拡大を目指し、業績の改善に努めてまいります。

業績予想につきましては、前回予想（平成20年5月15日発表）より変更ございません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

① 簡便な会計処理

該当事項はありません。

② 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 四半期財務諸表に関する会計基準の適用

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

② 重要な資産の評価基準および評価方法の変更

たな卸資産

第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）が適用されたことに伴い、評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）により算定しております。これにより、当第2四半期連結累計期間の営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失は、それぞれ2,921千円増加しております。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	320,505	2,096,591
受取手形及び売掛金	58,884	64,437
有価証券	1,400,000	—
商品	4,694	7,095
仕掛品	5,731	9,192
貯蔵品	11,151	11,837
その他	44,922	27,887
貸倒引当金	△77	△68
流動資産合計	1,845,812	2,216,972
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	459,317	459,317
減価償却累計額	△109,193	△97,552
建物及び構築物(純額)	350,124	361,764
その他	324,436	324,436
減価償却累計額	△324,436	△324,436
その他(純額)	—	—
有形固定資産合計	350,124	361,764
無形固定資産		
のれん	193,053	198,542
その他	—	1,476
無形固定資産合計	193,053	200,019
投資その他の資産		
その他	119,118	121,171
貸倒引当金	△472	△472
投資その他の資産合計	118,645	120,699
固定資産合計	661,823	682,483
資産合計	2,507,635	2,899,456

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,461	1,387
未払金	27,349	106,840
未払法人税等	7,675	11,253
引当金	1,446	—
その他	39,037	39,568
流動負債合計	77,969	159,050
固定負債		
長期リース資産減損勘定	7,052	9,586
固定負債合計	7,052	9,586
負債合計	85,021	168,636
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,855,225	4,855,225
利益剰余金	△2,437,107	△2,123,312
自己株式	△1,782	△1,782
株主資本合計	2,416,335	2,730,130
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	—	△2,037
評価・換算差額等合計	—	△2,037
新株予約権	3,566	—
少数株主持分	2,712	2,726
純資産合計	2,422,613	2,730,819
負債純資産合計	2,507,635	2,899,456

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)
売上高	134,542
売上原価	76,749
売上総利益	57,792
販売費及び一般管理費	370,668
営業損失(△)	△312,875
営業外収益	
受取利息	7,076
その他	307
営業外収益合計	7,383
営業外費用	
投資事業組合運用損	880
持分法による投資損失	787
その他	48
営業外費用合計	1,716
経常損失(△)	△307,207
特別損失	
固定資産売却損	2,658
投資有価証券評価損	2,264
特別損失合計	4,923
税金等調整前四半期純損失(△)	△312,130
法人税、住民税及び事業税	1,678
法人税等合計	1,678
少数株主損失(△)	△13
四半期純損失(△)	△313,795

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間
 (自 平成20年4月1日
 至 平成20年9月30日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失(△)	△312,130
減価償却費	11,714
のれん償却額	5,489
株式報酬費用	3,566
貸倒引当金の増減額(△は減少)	8
受取利息及び受取配当金	△7,076
為替差損益(△は益)	89
持分法による投資損益(△は益)	787
固定資産売却損益(△は益)	2,658
投資有価証券評価損益(△は益)	2,264
売上債権の増減額(△は増加)	5,552
たな卸資産の増減額(△は増加)	6,547
仕入債務の増減額(△は減少)	1,073
未払金の増減額(△は減少)	△78,756
その他の資産の増減額(△は増加)	△15,073
その他の負債の増減額(△は減少)	△2,070
小計	△375,355
利息及び配当金の受取額	6,409
法人税等の支払額	△4,805
営業活動によるキャッシュ・フロー	△373,751
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の払戻による収入	600,000
有形固定資産の取得による支出	△700
無形固定資産の取得による支出	△1,255
貸付金の回収による収入	634
その他	△924
投資活動によるキャッシュ・フロー	597,754
現金及び現金同等物に係る換算差額	△89
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	223,913
現金及び現金同等物の期首残高	1,496,591
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,720,505

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

当第2四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）

	遺伝子破壊 マウス事業 (千円)	抗体事業 (千円)	試薬販売 事業 (千円)	その他事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	55,648	42,590	27,626	8,677	134,542	—	134,542
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	55,648	42,590	27,626	8,677	134,542	—	134,542
営業損失 (△)	△44,842	△16,886	△13,558	△3,480	△78,768	△234,107	△312,875

(注) 1. 事業区分の方法

事業区分については、サービス及び製品の種類を考慮して分類しております。

2. 各事業に属する主要サービス及び製品の内容

事業区分	主要サービス及び製品
遺伝子破壊マウス事業	遺伝子破壊マウス作製及び当該マウスにかかる遺伝子機能情報等の提供
抗体事業	抗体の開発、製造及び販売
試薬販売事業	試薬の仕入、販売
その他事業	生殖工学技術研修等

3. 会計処理の方法の変更

(棚卸資産の評価に関する会計基準)

3ページ「4. その他(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、当第2四半期連結累計期間の営業損失は、遺伝子破壊マウス事業で2,921千円増加しております。

4. 事業区分の方法の変更

事業区分の変更については、従来、サービス及び製品の種類を考慮して3区分としておりましたが、第1四半期連結会計期間より、従来「その他事業」に含めて表示しておりました試薬販売事業の全セグメントに占める割合が高くなったため、試薬販売事業をその他事業から分離することといたしました。

この結果、従来の方法に比較して当第2四半期連結累計期間の売上高は、試薬販売事業が27,626千円増加し、その他事業が27,626千円減少しております。また、営業損失は、試薬販売事業が13,558千円増加し、その他事業が13,558千円減少しております。

〔所在地別セグメント情報〕

当第2四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

〔海外売上高〕

当第2四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

（6）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

「参考資料」

前年同四半期に係る財務諸表

(1) 中間連結損益計算書

区分	前中間連結会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)	
	金額 (千円)	百分比 (%)
I 売上高		151,375 100.0
II 売上原価		85,401 56.4
売上総利益		65,974 43.6
III 販売費及び一般管理費		415,159 274.3
営業損失		349,184 △230.7
IV 営業外収益		
1 受取利息	7,320	
2 補助金収入	576	
3 その他	1,244	9,141 6.0
V 営業外費用		
1 支払利息	184	
2 持分法による投資損失	17,527	
3 その他	354	18,066 11.9
経常損失		358,110 △236.6
VI 特別利益		
1 持分変動損益	20,032	20,032 13.3
税金等調整前中間純損失		338,078 △223.3
法人税、住民税及び事業税		3,391 2.3
少数株主損失		138 △0.1
中間純損失		341,330 △225.5

(2) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

	前中間連結会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)
区分	金額 (千円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前中間純損失	△338,078
減価償却費	38,403
のれん償却額	5,489
貸倒引当金の増減額 (減少: △)	△15
受取利息及び受取配当金	△7,320
支払利息	184
持分法による投資損益 (益: △)	17,527
持分変動利益	△20,032
売上債権の増減額 (増加: △)	7,289
たな卸資産の増減額 (増加: △)	5,209
未払金の増減額 (減少: △)	△10,156
その他資産の増減額 (増加: △)	18,610
その他負債の増減額 (減少: △)	△3,875
小計	△286,763
利息及び配当金の受取額	7,298
法人税等の支払額	△7,003
営業活動によるキャッシュ・フロー	△286,468
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の払戻による収入	20,030
有価証券の償還による収入	900,000
有形固定資産の取得による支出	△19,554
無形固定資産の取得による支出	△1,659
投資有価証券の取得による支出	△817
その他	△832
投資活動によるキャッシュ・フロー	897,166
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額 (減少: △)	△80,000
長期借入金の返済による支出	△134,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	△214,000
IV 現金及び現金同等物の増減額 (減少: △)	396,697
V 現金及び現金同等物の期首残高	1,971,965
VI 現金及び現金同等物の中間期末残高	2,368,662

(3) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前中間連結会計期間（自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日）

	遺伝子破壊 マウス事業 (千円)	抗体事業 (千円)	その他事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	89,906	33,938	27,530	151,375	—	151,375
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	89,906	33,938	27,530	151,375	—	151,375
営業費用	161,441	45,245	40,317	247,004	253,555	500,560
営業損失	71,535	11,306	12,786	95,628	253,555	349,184

(注) 1 事業区分の方法

事業区分については、サービス及び製品の種類を考慮して分類しております。

2 各事業に属する主要サービス及び製品の内容

事業区分	主要サービス及び製品
遺伝子破壊マウス事業	遺伝子破壊マウス作製及び当該マウスにかかる遺伝子機能情報等の提供
抗体事業	抗体の開発、製造及び販売
その他事業	動物飼育管理受託、試薬販売等

[所在地別セグメント情報]

前中間連結会計期間（自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

[海外売上高]

前中間連結会計期間（自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日）

海外売上高は連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。